

古文書倶楽部

【発行】
秋田県公文書館
古文書班
2006.2
第6号

『国典類抄』検索サービス開始!

古文書ファン皆様へ朗報!

秋田県公文書館カウンターでは、江戸時代初期から後期に至る秋田藩の事績を記した『国典類抄』(全十九巻)に登場する地名(秋田県内)・人名・役職名の検索サービスを二月十四日(火)から開始します。

「私の探している人物は『国典類抄』に出ているのであろうか?」とお悩みのそんなあなた。

「自分の住む場所が『国典類抄』の何巻のどこに出ているか?」を調べたい郷土史大好きなそんなあなた。

「確か私の先祖は秋田藩の重職である××役に就いていたと聞いたので?」と確認したいそんなあなた。

はたまた歴史研究の最前線にいる、そんなあなた。皆様ふるって公文書館カウンターにお越しください。

全十九巻の『国典類抄』を即座に調べます。
そしてまたうれしい情報!

三月中旬、公文書館ホームページのリニューアルに伴い、御自宅のパソコンで『国典類抄』検索目録を見ることができるようになります。こちらもあわせて御利用ください。

『宇都宮孟綱日記』第1巻 絶賛予約受付中

「幕末の秋田藩家老宇都宮孟綱の日記がお手ごろ価格(五千円)であなたの手に!」

本年二月刊行の『宇都宮孟綱日記』第1巻の魅力を「古文書倶楽部」第5号に引き続き紹介します。

弘化元年大晦日、秋田藩江戸屋敷炎上事件

弘化元年(一八四四)十二月の大晦日の夜、下谷七軒町(東京都台東区)にあった秋田藩の上屋敷が炎上します。近隣の協力もあり幸い大火災には至りませんでした。藩主一門の鼎様(佐竹義路)の屋敷が焼け落ちます。

ところがこの鼎様、かなりのくせ者。藩主からの火事見舞い百両をもらっても、避難した長屋が狭いと文句。そして藩主側近の志賀猪三郎の長屋に住みたいと言いつつ始末。当然志賀の新たなすみかも手配しなければならぬ。

わがままな鼎様の申し出は、宇都宮にとつては頭痛の種。「うまくいかないかも知れませんが」というのが精一杯。当の猪三郎は「お任せします」とあきらめ半分。だが金大之進・岡糺ら藩主側近と勘定奉行田代新右衛門は一致団結し宇都宮を「御受不相成趣逐一申談候」と突き上げる。このような場面も家老にはつらいところ。

結局は新右衛門が鼎様を説得し、わがままの矛先を収めさせています。災害時のわがままは、やはり今も昔も許せないものですね。
(畑中康博)

『宇都宮孟綱日記』第1巻のお申し込みは、秋田活版印刷株式会社(電話0181-888-3500)で受け付けております。

大名火消しの消火活動はショーだった

今月のおすすめ古文書

佐竹藩御火消御合印御本図帳

(AH317129)

一般に江戸の消火活動に当たったのは、八代將軍徳川吉宗が創設させた「いろは四十

八組」の町火消しが有名です。しかし武家地の消火活動は「大名火消し」の役割でした。

当館所蔵の「佐竹藩御火消御合印御本図帳」には、享保二十年(一七三五)に制定された秋田藩の火消装束と道具

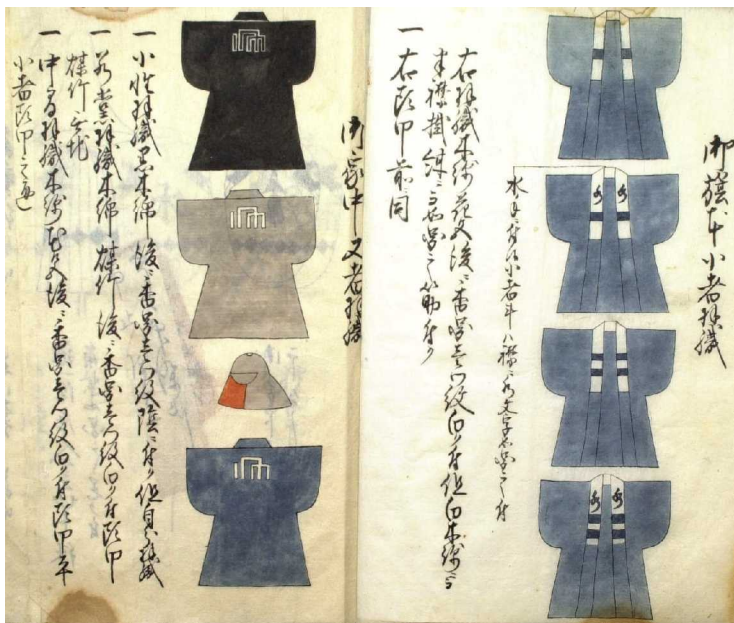
が彩色で描かれています。「火消装束」とは、赤穂浪士が討ち入りの時に着用して

いるあの格好です。この史料から、上級武士は自分の家紋を入れたオーダーメイドの黒羽織を着用しますが、下級武士は源氏香の紋がついた貸与の羽織を着用していたことが分かります。また足軽や中間の羽織は草色でした。更に役職ごとに襟のデザインが異なっており、一目で身分の上下

が分かるようになっていたのです。

秋田藩江戸藩邸には「角繫組」「輪違組」「朱一本筋組」「朱式本筋組」の四部隊があり、それぞれ異なるまといを立てていました。更に藩主が火災現場で指揮を執る場合は、家来が扇に月丸の佐竹の家紋が入った赤い提灯を持つことになっていました。

凝った意匠の羽織をたなびかせて、他の大名火消しに負けじと江戸の町を疾駆する秋田藩士の姿を思い描くと、泰平の世で戦争気分にはたる武士と、それを沿道で喝采する野次馬の姿が浮かんできませんか？
(畑中康博)



古文書「ほれ話

秋田藩上級武士の子供の祝い事

「渋江和光日記」を通して、子供の誕生から出仕までどんな祝い事があるか、和光の長男敬太郎と次男貞治の場合を見ます。

(カッコは「渋江和光日記」に記述のある日付です)

誕生 敬太郎(文化十三年十月十九日)

貞治 (同十四年十一月二十日)

産穢 和光勤めを休む(同十三年十月二十四日)

三つ目の祝 敬太郎(同十三年十月二十一日)

名付けの祝 敬太郎(同十三年十月二十七日)

坐出の祝 敬太郎の母が武家の妻としての役割

を勤める(同十三年十一月十一日)

産着初の祝 敬太郎に紋付衣裳が贈られる(同

年十一月四日)(同十一年十一月十九

日) 箸初めの祝 敬太郎誕生約百日目(同十四

年四月 月二十九日)

初節句 敬太郎の幟仕立(同年四月二十七日)

幟立て(同年五月朔日)

初誕生日 敬太郎の場合(同年十月十九日)

御宮祠堂拜礼 敬太郎・お(同年十一月九日)

髪置の祝 貞治五歳、袴着の祝と称す(文政四

年十二月十九日)

出仕 貞治童形御目見元服出仕、十五歳(同十

二年十二月九日)・出仕、十六歳(天保

元年四月五日) (越中正一)